

地方都市における高齢者の社会関係（2）

— 大企業 OB の社会的ネットワーク —

古谷野 亘，西村 昌記，矢部 拓也，高木 恒一，浅川 達人，安藤 孝敏

第 44 回日本老年社会科学大会一般報告，2002.6.

【目的】 社会的に孤立しがちであるといわれる企業退職高齢者（サラリーマン OB）の社会関係の特徴を検討するため、地方都市に居住する男性高齢者の社会的ネットワークの構成と他者の選択機序について分析した。

【方法】 調査は、2001 年 5～6 月に、訪問面接法により実施された。調査対象者は、岐阜県中津川市に居住する 60～79 歳の高齢者のうち無作為に抽出した 1,000 人（一般）と、同市にある M 社中津川製作所の退職者（OB）478 人であった。同製作所は、中津川市における最大の事業所である。

有効回収率は一般で 79.1%、OB では 88.1%であった。本報告では、60～79 歳の男性高齢者（一般 370 人、OB316 人）のみを分析の対象とした。分析対象者の平均年齢は一般で 68.5 歳、OB では 69.4 歳であった。就学年数と現在地居住年数の平均、および有配偶率に、一般と OB の間の差はなかった。OB の中津川製作所での勤続期間は 26～53 年、平均 40.2 年であった。

調査対象者には、同居家族、子ども、子どもの配偶者以外で「気心の知れた仲だと感じる方」を最大 7 人まであげて、その一人一人について、基本属性と交流の態様をたずねた。分析はケースを単位として行い、あげられた他者のうち「一緒にいてほっとする」人について、知り合ったきっかけと距離別の人数および構成比を算出した。

【結果】 「一緒にいてほっとする」他者の数は 0～7 人で、平均人数は一

般（1.95 人）より OB（2.61 人）で多かった。知り合ったきっかけ別にみると、OB では「同じ会社」で知り合った者が特に多く、この差が合計人数の差をもたらしていた（表）。距離別にみると、一般と比較して OB では、5 分未満に住む他者が少なく、15 分以上 30 分未満に住む他者が多かった。

OB のうち中津川市出身者と転入者の差は、知り合ったきっかけ別の他者の数についてのみ認められ、転入者では「同じ学校」で知り合った他者が少なかった。

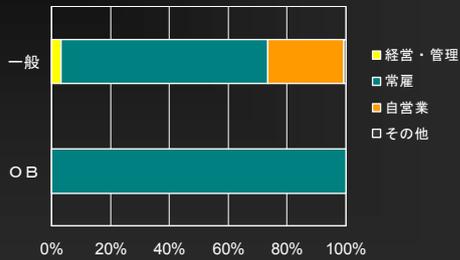
【考察】 M 社中津川製作所の OB にとって、同製作所での勤務経験は社会関係を豊かにする契機となり、しかも「近所」「学校」等をきっかけとする関係を減らす理由にはなっていなかった。ただし、「ほっとする」人の居住地は通勤圏に広がっていた。また、地方都市に特有の現象である地元出身者と転入者の差も OB の間ではほとんど認められなかった。

表 「一緒にいてほっとする」他者の数と構成比

		一般	OB
ほっとする人の合計		1.95 (100.0)	2.61 (100.0)
知り合 ったき っかけ	近所	0.44 (22.4)	0.33 (12.6)
	同じ学校	0.46 (23.7)	0.42 (16.1)
	同じ会社	0.40 (20.5)	1.18 (45.1)
距 離	5 分未満	0.64 (32.5)	0.48 (18.6)
	15 分未満	0.69 (35.3)	1.05 (40.2)
	30 分未満	0.37 (19.0)	0.75 (28.6)
	60 分未満	0.11 (5.5)	0.23 (8.7)
	60 分以上	0.13 (6.6)	0.09 (3.5)

数値は平均人数。() 内は%.

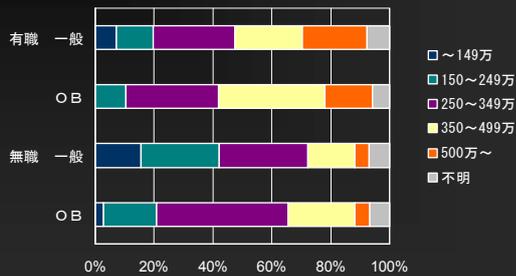
主 職



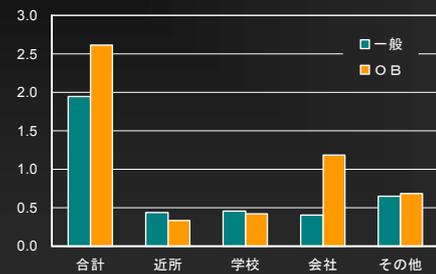
基本属性の比較

	一般	OB
■ 年 齢	68.5 ± 5.4	69.4 ± 5.3
■ 就学年数	9.8 ± 2.7	9.5 ± 2.2
■ 現在地居住年数	47.2 ± 20.6	45.5 ± 17.8
■ 生活機能	11.5 ± 2.4	12.0 ± 1.7
■ 有配偶	90.0%	92.7%
■ 市内出身	70.3%	74.0%
■ 有 職	49.5%	33.2%

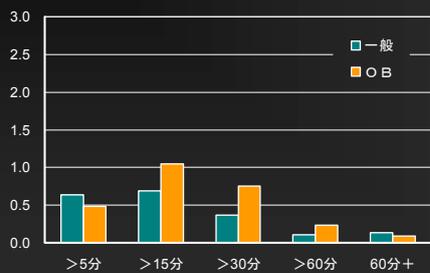
夫婦年収



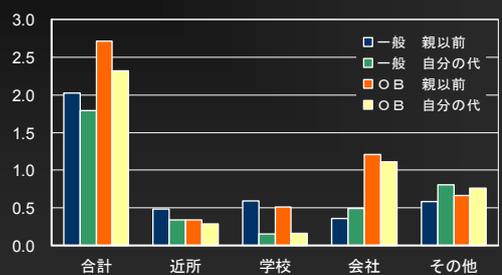
「ほっとする人」の平均 知り合ったきっかけ別



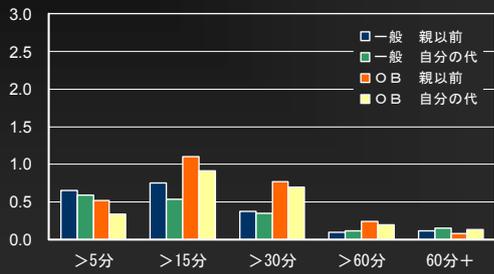
「ほっとする人」の平均 居住地の距離別



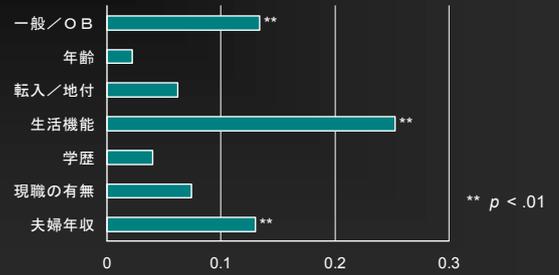
「ほっとする人」の平均 知り合ったきっかけ別



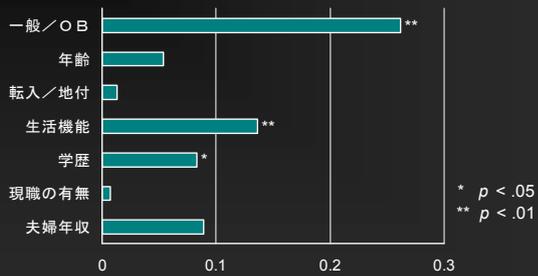
「ほっとする人」の平均 居住地の距離別



「ほっとする人」の関連要因 (偏相関比)



「ほっとする人」(会社)の関連要因 (偏相関比)



「ほっとする人」(近所)の関連要因 (偏相関比)

